

あわくら 歴史街道

医師岸本友仙^{ゆうせん}
と七寶丸

文化14年(1817)頃より吉野郡大茅林に、医師岸本友仙という人が住み、地域住民の医療調薬に専念していました。友仙は寛政11年(1799)の生れで明治18年(1885)87歳で亡くなっています。大茅に定住された唯一の証拠は、現在の鳥取市湯所町にある天徳寺発行の往来手形(文化14年5月)によると「岸本友仙代々禪宗拙寺の旦那に紛れなく御座候 然る処此度医道修行の為にまかり出候に付云々」とあるように、大茅にこられたのもその頃と思われ18歳の段階で既にある程度の医学を学んでいた事が窺えます。友仙の大茅定住となるまでの逸話が岸本家に伝わっていました。



友仙が医学修業時代、師匠で鳥取藩池田侯の藩医宮田家の娘と結婚する予定であったが、うめと云う別の好きな女性ができて駆け落ちし、国境を越えて坂根村に辿り着いた頃うめは死亡、大茅に医者もいないことから要請されて住み着くことになったそうです。うめとの死別後はよしと云う女性と再婚され、後継ぎの伝九郎氏等多くの子供をもうけられています。

友仙の弟も旧作東町豆田と、鳥取県智頭町でもそれぞれ医者をしていて、三兄弟揃って医師だったと伝えられています。大茅での医業振りは資料も少ないものの、鉄山布袋山本場(事務所)から往診を要請した口上書及び地元患者への内服薬の薬袋、医書等も遺っていて数多くの薬が作られていたようです。その中でも特筆すべき、家伝薬に「七寶丸」と云うのがあって、その薬効は性病の一つ黴毒を治すとあって、日本には本来ない病気であったが永正9年(1510)には京都で流行した記録があると云われています。岡山県内では家伝薬調査でこの七寶丸と、瀬戸内海の石島で作られていたようで、僅か二剤しか見つかっておらず貴重な資料と云われています。

岸本友仙のことについては、平成11年4月から5月にかけて岡山県立博物館が、企画展「岡山の薬」の開催に向けて、県内に伝わる家伝薬等を調査の為、同年4月6日來村の木下学芸員に同行した村教委職員、並びに文化財保護委員により調査いたしました。その報告書の一部について紹介しました。



人の動き

平成18年11月1日現在

- 人口 1,670人(-15)
- 10月中の移動
- 男 792人(-8) 出生 0人 死亡 6人
- 女 878人(-7) 転入 2人 転出 8人
- 世帯数 544戸(-5)

お悔やみ申し上げます

岸本 幸市 さん (大茅)	10月26日	91歳
中島 壽 さん (谷口)	10月27日	95歳
赤代 欽一 さん (塩谷)	10月28日	84歳
福井 安江 さん (別府)	10月29日	96歳
河野 紋平 さん (中土居)	11月5日	81歳
内海もも彥 さん (坂根)	11月10日	90歳

善意の窓

(村社会福祉協議会から)

平成18年10月21日~18年11月20日

おめでとうございます

下土居 野々上良弘 様 長女里美様 結婚内祝
坂根 草刈 弘幸 様 長男智弘様 結婚内祝

お大事にしてください

引谷 小椋 猛 様 本人 退院内祝
引谷 小椋 種子 様 本人 退院内祝
大茅 井上 君子 様 本人 退院内祝
引谷 青木 きぬ 様 本人 退院内祝
別府 春名美也子 様 本人 退院内祝
引谷 乾 みや子 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

引谷 石原美恵子 様 亡母百合子様 香典返し
別府 福井 啓勝 様 亡母 安江様 香典返し
大茅 岸本 武志 様 亡父 幸市様 香典返し
塩谷 赤代 誠 様 亡父 欽一様 香典返し
谷口 中島 修三 様 亡父 壽様 香典返し
坂根 内海 一浪 様 亡母もも彥様 香典返し

今月の村税

固定資産税(第4期)

国民健康保険税(第7期)

納期限: 12月25日

◎納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。

口座振替の場合は残高確認をお願いいたします。

☆農業収支計算の準備は進んでいますか?

帳簿への記帳や領収書は大切に保存しましょう

お問い合わせ先: 西粟倉村役場総務企画課

たばこは村内で買しましょう